SIEMENS

プレスリリース

報道関係各位

2014 年 1 月 31日
シーメンス ヒヤリング インスツルメンツ株式会社

米国の研究所が“難聴の高齢者は認知症を発症する可能性が極めて高く補聴器が認知症の予防につながる”と発表

大多数の人が放置している認知症の要因のひとつが難聴であり、
補聴器はその有効な解決策のひとつである

1958 年に米国の国立老化研究所によって開始された BLSA（the Baltimore Longitudinal Study on Aging）は、数十年にわたって何千もの男女の様々な健康因子を追跡調査している。この BLSA のデータを使い、聴力と認知能力に焦点を当て 639 人を調査したところ、正常な聴力を持つひとと比較して、軽度難聴者は約 2 倍、中等度難聴者は約 3 倍、重度難聴者の場合は 5 倍の認知症発症率であった。研究者たちは、糖尿病、高血圧、年齢、性別、人種など、認知症につながる可能性がある他のリスク因子に関しても考慮したが、それでも、“難聴と認知症はより強い因果関係にある”という。

また、同じく米国のブランダイス大学の研究者たちは、軽度から中等度の難聴の高齢者は正確に聞き取ろうとすることに多大なエネルギーを使い、その結果、話したことを記憶するのに苦労していると発表している。この研究では、難聴の高齢者は十分に言葉を聞きとることができた場合でも、これらの単語を暗記し、覚えておく能力が同年齢の健聴者と比較して劣っていたという。ヴォレン国立センターの神経科学の教授であり、ブランダイス大学のアーサーウィングフィールド博士は、"本研究は、医療従事者を含む、高齢者に係るすべての人に対して、難聴がいかに認知能力に影響を与えるかということをもっと意識すべきであるとの注意喚起である"と語った。

こうした調査結果は認知症と闘うための新しい方法につながり、世界中の何百万人もの人々に影響を与え、彼らの重い負担を軽減できる可能性がある。難聴が認知症につながる理由は明らかになっていないが、研究者らは、両者には根底に共通の病理があり、長年にわたり音を解読しようとする負担は、難聴者の脳に負担をかけ、彼らが認知症になりやすい状況をもたらしている可能性があることを示唆している。研究者らはまた、聴力の低下が認知症や他の認知障害の危険因子としてよく知られている、社会的な孤立を招くことによって認知症につながるのでは、と推察している。

科学者らによると、原因が何であれ、彼らの発見は問題解決のための出発点となる可能性があり、シンプルに補聴器によって、患者の聴力を改善することで、認知症の進行を遅らせたり、もしくは認知症を防いだりすることができるかもしれないのである。

出典；
http://www.hopkinsmedicine.org/otolaryngology/our_team/faculty/lin_frank.html
http://www.hopkinsmedicine.org/otolaryngology/
http://www.grc.nia.nih.gov/branches/blsa/blsanew.htm

本リリースに関するお問い合わせ先
シーメンス ヒヤリング インスツルメンツ株式会：エトゲン・クリスチャン/川瀬亜実子
TEL：042-765-5642 FAX:042-765-5601 MAIL：amiko.kawase@siemens.com